

授業科目 臨床看護総論(1) 救急 他	区分・教育内容		
	専門分野 I 基礎看護学		
授業担当者 加賀谷園子	開講時期	単位	時間数
	前期	1 単位	30 時間 (救急 他 18 時間)
授業の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の活動の場および機会について理解する。 2. 健康上のニーズや健康上の経過(健康レベル)に応じた看護について理解する。 3. 救急蘇生法について理解する。 			
授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場、チーム医療の機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむ。 2. 健康上のニーズに応じた看護の役割がわかる。 3. 各健康レベルの特徴と看護の役割がわかる。 4. 治療の種類と方法、それぞれの治療における看護の要点がわかる。 5. 一次救命処置の方法がわかり、シミュレータに実施できる。 			
授業概要 <p>看護活動の場および機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむところから始める。看護の基本として、多様な健康上のニーズを持つあらゆる健康レベルにある人々に、基本的な看護の知識や技術を統合し応用するプロセスを学ぶ。健康上のニーズについて、自分や家族にあてはめて理解を深める。また、各健康レベルの特徴と急性期・回復期・慢性期にある対象の看護について、事例を通して学ぶ。</p> <p>一次救命処置の技術習得を目指し、演習・技術試験を行う。</p>			
授業計画 (進め方) <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 看護活動の領域と場 健康上のニーズをもつ対象の看護 2～4 回目 健康状態の経過(健康レベル)と看護 5 回目 治療の種類・方法と看護 6・7 回目 救急蘇生法 8・9 回目 一次救命処置の実際(演習、技術試験) 			
テキスト <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護技術プラクティス 第4版 学研</p>			
参考書・指定図書			
評価の方法 <p>臨床看護総論 100 点満点中の 55 点。筆記試験(45 点)、一次救命処置技術試験(10 点)</p>			

授業科目 臨床看護総論 (2) 終末期看護	区分・教育内容		
	専門分野 I 基礎看護学		
授業担当者 北林奈美子 (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	30 時間 (終末期看護 8 時間)
授業の目的 1. 健康障害の進行や健康レベルに対応した看護の役割および実際について理解する。 2. 様々な治療・処置に伴う患者の特徴・看護・救急法の実際について理解する。			
授業の目標 終末期にある患者の特徴と看護の実際および役割がわかる。			
授業概要 看護基礎教育の段階から死生観について向き合う時間を持つことが重要であると言われている。医療者は終末期にある患者と家族が抱える様々な苦悩に寄り添い、和らぐような支援が求められている。終末期患者と家族の苦悩や尊厳ある死を迎えることの大切さを理解し、看護師に必要な知識や援助技術を理解できるように授業を進めていく。実際の事例で看護展開した内容を紹介しながら、看護学生の死生観が培われるように進めていく。			
授業計画 (進め方) 1 回目 当院の緩和ケアチーム、がん相談支援センター、緩和ケア認定看護師の役割について紹介 緩和ケアとは (緩和ケアの歴史と現状) 終末期患者とその家族の特徴 (全人的苦痛について) 2 回目 身体症状のアセスメントと看護 (がん性疼痛、呼吸困難、食欲不振、口腔内トラブル) 3 回目 援助的コミュニケーション (グループワーク形式予定) 4 回目 死の受容過程の理解と援助、家族ケア 臨死期のケア (エンゼルケアの目的と意義、援助技術について、講義+DVD 試聴)			
テキスト ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版			
参考書・指定図書			
評価の方法 臨床看護総論 100 点満点中の 30 点 筆記試験及び演習での取り組み状況を総合的に評価する。			

授業科目 臨床看護総論 (3) 化学療法看護	区分・教育内容		
	専門分野 I 基礎看護学		
授業担当者 嵯峨 千春 (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	30 時間 (化学療法 4 時間)
授業の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学療法の目的・特徴を学ぶことができる。 2. 化学療法を受ける患者の苦痛を理解し、看護の役割について学ぶことができる。 			
授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学療法を受ける患者の身体・心理・社会的苦痛を理解し看護の役割がわかる。 2. 化学療法の目的・特徴を理解し、副作用の発生機序・時期とその看護がわかる。 3. 化学療法を受ける患者のセルフケアの必要性を理解することができる。 			
授業概要 <p>化学療法の目的や特徴を最新のトピックスを含め、学んでほしい。また、イメージしやすいよう事例を通して、化学療法を受ける患者の身体・心理・社会的苦痛への理解を深めていき、看護を学んでほしい。他、患者を支える家族の問題や化学療法におけるセルフケア支援の重要性を学んでほしい。</p>			
授業計画 (進め方) <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 化学療法の目的・特徴 化学療法に伴う苦痛への対応 2 回目 化学療法に伴う苦痛への対応 まとめ 			
テキスト <p>ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版</p>			
参考書・指定図書			
評価の方法 <p>臨床看護総論 100 点満点中の 15 点 授業態度と筆記試験により総合的に評価する。</p>			